



# 学 校 便 り 琢 磨

令和4年度 第3号 R4.4.22 三豊市立詫間小学校

## 来週月曜日はお弁当・おやつ持参の日です！

明日、4月23日（土）は、PTAの授業参観、総会等が中止になりましたので、学校は普通の土曜日と同じでお休みとなります。したがって、4月25日（月）は、授業日です。しかし、この日、すでに給食を止めておりますので、保護者の皆様には大変ご面倒をおかけしますが、お弁当の用意をお願いします。また、おやつ（300円以内）持参の日にもなります。

昨年度から、春の遠足は実施せず、秋の遠足とは別に遠足（遠足に代わる校外学習）を年間に1回は学年団で計画するようにしています。25日に、校外に出かけてお弁当を食べる学年もあります。雨天等で校外に出かけなくても給食はありませんので、お弁当とおやつは学校に持ってきてください。（裏面の「真鍋校長の独り言」は、お弁当にまつわるお話です。）

## 花和紙作り体験（4年生）

4月19日（火）。4年生は、芝生広場で「花和紙作り体験」を行いました。これは、毎年、詫間町内の4年生を対象に、花と浦島イベント実行委員会の方々が企画・運営して下さるものです。本来は、大浜の「フラワーパーク」にバスで行って、そこで花和紙を作るのですが、コロナ禍ということで、昨年度から小学校の芝生広場で行っています。

4年竹組、4年梅組、4年松組の順番に、クラスごとに、紙すきをして花びらで模様を作る活動に取り組みました。計画したよりは短い時間で、どの子も素晴らしい作品を作り上げていました。

花和紙は、1週間ほど乾燥した後に、4年生の皆さんの手に戻ってくるそうです。



## 本校の発信専用携帯電話1台の使用終了について

先日、本校の発信専用の携帯電話3台（スマホ2台・ガラホが1台）について番号をお知らせしたところですが、3台の携帯電話のうちガラホにつきましては契約期間が終了するので契約更新はせずに使用を終了するとの連絡が市教委からありました。

スマホ1 080-7220-5723

スマホ2 080-7299-1315

ガラホ 080-9834-0874 **使用終了**

5月からは、固定電話2回線とスマートフォン2台の運用となりますのでお知らせします。

お弁当の日々

私が子どもの頃も、幼稚園、小学校、中学校の間は給食でした。学校のブログにも、私が子どもの頃の給食の思い出を掲載しています。

私が子どもの頃も今と同じで、「給食」がほとんどで、遠足など時々「お弁当」というのが普通だったのですが、私が小学校の3年生か4年生の頃、数か月間、毎日お弁当を持って行ったことがありました。その理由は、学校の給食調理場を建て替えるため給食を作ることができなかつたからです。

その話を聞いた時、私は大喜びでしたが、母親は機嫌が悪かったように記憶しています。はっきりとは覚えていませんが、おそらく2か月くらいは、毎日お弁当を持って行ったと思います。今考えれば、母親の機嫌が悪くなるのも分かります。当時は、母親と言えば主婦というのが当たり前でしたが、うちは、両親共に働いていました。父親は、毎日お弁当を持って仕事に行っていたので、ついでと言えはついでなのですが、小学生の子どもにお弁当を持たせようとすれば、ついでとはいかなかったようです。仕事に行く前に大人と子どもの2人分のお弁当を毎日作らなければならない苦勞を考えると、母親の機嫌が悪くなることくらいで済んだのが不思議でした。今ではちょっと考えられないのですが、まず、冷凍食品が無いのでチンしてお弁当に入れることができません。もちろん、電子レンジという機械もありませんでした。お弁当自体を売っている店がありませんでした。もちろん、コンビニという店もありませんでした。そして、給食センターというものも無かったので、どこかから給食を運んでくることもできませんでした。つまり、給食が無くなると、家でお弁当を作って持ってくるしか方法が無かつたということです。

しかし、私は大喜び。遠足のお弁当を毎日食べることができると思ったのですから。しかし、現実とはそうではありませんでした。最初は毎日、おにぎりでしたが、そのうちご飯の上に梅干しが1コというパターンで弁当箱の3分の2、残りの3分の1に、あまり鮮やかな色ではないおかず（煮物とか焼き魚とか）が入るといったものになってきました。デザートもだんだんと姿を消していきました。ある時、「お母さん、お弁当、おにぎりにしてよ。」とお願いしましたが、あかぎれで、ほうぼうに傷がある母の手を見て、「やっぱり、ご飯の方がええわ。」と、言い直したこともありました。

母親にとっても私にとっても長く感じたお弁当の日々だったと思います。

時は経って、私は高校に入学しました。高校は給食がありませんので、毎日、母親がお弁当を持たせてくれました。こちらは3年間なので、もっと大変だったと思います。実は、毎日お腹をすかしているわけではありませんでした。お弁当を食べたくない気分の日もありました。苦勞して作ってくれた母に申し訳ないので、お弁当を残す時は、できるだけ早く帰宅して分からないように中身を捨てて、また包み直したものでした。「今日も、お弁当残さず食べたんやな、よかった！」と言う母の言葉を聞きながら、返事ができなかつたのを覚えています。

それから何十年。私の娘が高校に進学してからの約3年間。私は、娘のお弁当を作り続ける日々を過ごしました。しかし、私の子どもの頃とは違います。冷凍食品をチンして入れる技を駆使しながら、本当に申し訳ないお弁当でした。女子高生が持って行くような（見たことがないので分かりませんが・・・）お弁当とは程遠いお弁当でも、娘はほとんど文句も言わずに持って行ってくれました。まあ、私が娘のためにしたというのは、この「お弁当」くらいしかありませんが・・・。

今なら、母親にもう少し感謝していたと思います。今なら、娘に、もう少し料理を勉強して毎日楽しみになるようなまともなお弁当を少しは作ることができたと思います。この場を借りて「ありがとうございました。」「ごめんなさい。」を言わせていただきます。

この記事をご覧になっている皆さんも、「お弁当の思い出」や「お弁当に対する思い」が、きっといろいろあると思います。「お弁当」って深いですね。